

平成 26 年度 彦根統合新校設置懇話会 第 5 回会議 概要

1 日 時

平成 27 年 3 月 27 日（金） 16:00～17:30

2 場 所

滋賀県立彦根翔陽高等学校 セミナーハウス

3 次 第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 意見を伺う事項
 - (1) 校章デザインの選定について
 - (2) 開校に向けた取組状況について
- 4 その他
 - 次年度、ご意見を伺う方法について
- 5 閉会

4 出席者

(1) 委 員

- | | | |
|--------|----|-------------------------|
| 杉本 定幸 | 委員 | (彦根翔陽高等学校同窓会 会長) |
| 福渡 努 | 委員 | (滋賀県立大学人間文化学部 教授) |
| 藤田 隆行 | 委員 | (彦根西高等学校同窓会 会長) |
| 宮野 由紀絵 | 委員 | (彦根西高等学校 学校評議員) |
| 八谷 啓子 | 委員 | (彦根翔陽高等学校 学校評議員) |
| *磯谷 直一 | 委員 | (彦根市企画振興部 部長) 欠席 |
| *岡崎 正彦 | 委員 | (彦根市 P T A 連絡協議会 顧問) 欠席 |

(2) 統合新校開設準備室

- | | | |
|--------|------------------|-------------|
| 茶谷 不二雄 | 彦根統合新校開設準備室長 | (彦根翔陽高等学校長) |
| 猪田 章嗣 | 彦根統合新校開設準備室参事 | (彦根西高等学校長) |
| 森田 恭司 | 県教育委員会事務局学校支援課参事 | |

5 主な意見

(1) 校章デザインの選定について

- 校章デザインの募集数は 70 点であった。応募者の年齢層は 10 代が大半を占めた。特に県内高校と彦根市内中学校の美術部から多数の応募があった。
- 彦根西高校と彦根翔陽高校の教職員に対して、応募された作品についてアンケートを実施した。
- 両校教職員のアンケート結果や懇話会委員の意見を伺った上で、最終的には彦根統合新校開設準備室および県教育委員会とで協議して校章デザインを選定していく。
- 応募されたものには、白黒とカラーの 2 種類がある。カラーの作品の場合、デザインそのものに意味が込められたものであればよいが、色分けが大切な作品については白黒にすると意味をなさない恐れがある。
- デザインの中に『高』を入れることにより、高校のデザインとわかるものが良いのでは

ないか。

- 『高』だけではどこの高校かわからない恐れがある。彦根翔西館は馴染みがないので、字数は多くなり見た目もシンプルではなくなるが、『翔西館』を入れたものが良いのではないか。
- 手書きの作品より、パソコンを使った作品の方が完成度もあり、見栄えがする。
- エンブレムは、必ずしも校章デザインと一致しなくても良い。
- 正門に飾る以上、『翔西館』を入れた形の整ったわかりやすいものが良い。
- 『高』のデザインを『翔西』に入れ替えると良い作品がある。ただしそのような場合、作者に了解を得る必要がある。
- 懇話会委員も教職員同様にアンケートを実施することにする。

(2) 開校に向けた取組について

- (仮称)健康科学系列については、体育に特化した系列を想定して新たな名称と内容を検討する予定。
- 部活動については、滋賀県高校スポーツをリードする目的でサッカー部やなぎなた部などの創設を検討する。
- 創設する部活動については、活動場所や指導者の確保が課題である。
- 現実的に彦根翔陽高校と彦根西高校の統合で新校ができるのであるから、新校に対する協力は惜しまない。そのためにも、新校の良いところが何であるのか考えるべきである。
- 安全面の対策について、彦根市にも働きかけをして、現在、JR踏切近くの道路の拡幅が試験的に行われている。地元住民への説明会については、2回行った。
- 体育に特化した系列の教育内容を充実させるために、体育館を2つにする場合、明らかにグラウンドが狭くなる。その場合は対応策を検討して頂きたい。
- 正門付近の桜の木は、すべてを残すことはできないが、可能な限り残していく。
- 新校舎の使用については、3校バランス良く配置する。
- 入学式については、工事期間中でもあり保護者の駐車場確保の問題があるが、今のところ新校で実施する予定である。ただし外部の施設を利用する可能性もある。

6 その他

次年度、ご意見を伺う方法について

- 彦根統合新校設置懇話会は、平成25年度と平成26年度の2年間であり、平成27年度については、新たに意見を伺う懇談の場を設ける。